

助産師養成 悩む大学

出産を助ける助産師の養成に、関係大学が頭を悩ませている。少子化で出産が減っている上、学生の分娩介助実習に対する安全性などを懸念する妊婦が増え、資格取得に必要な

岡山県内

実習回数の確保が難しくなっているためだ。養成コースの定員を減らせば現場の助産師不足に拍車がかかる恐れもあり、大学は妊婦に協力を求めるのに懸命だ。(水輿佑香)

出産減、実習拒む妊婦も

焦点

度から約十人の枠でスタートした。

増やせぬ定員

助産師の国家試験を受けるには、産科のある病院で十回程度の分娩介助が義務付けられている。大学は確保できる実習施設、分娩件数などを踏まえて定員を決めている。しかし、少子化の影響



助産師を目指して勉強に励む岡山大学保健福祉学部の学生

で、岡山県内の分娩件数は二〇〇五年に約一万六千九百件と、〇〇年より約二千五百件(13%)も減少。さらに、岡山大によると、妊婦が学生の分娩介助を拒否するケースが分娩件数の三分二を占めており、「安全性を懸念したり、プライバシーを主張する傾向が年々強まっている」(担当教員)。単純に分娩件数だけで定員を決められなくなり、拒否率も踏まえると定員を減らさざるを得ないという。岡山大は二十人の定員を〇六年度から七人に減らし、県立大も一九九三年の創立以来、四人のままというのが実情だ。

現場人手不足、拍車の恐れ

岡山県施設指導課にめる随情書を提出。〇四によると、県内で実際に働く助産師は〇四年時点で三百五十五人いたが都市部の施設に集中し、備前、瀬戸内の二市と十二郡(当時)にはいなかった。産科廃止や縮小に追い込まれる病院が相次ぎ、大学の養成枠が狭まれば、より深刻な事態になるといえる。岡山のある総合病院でも〇五年十一月、産科を縮小せざるを得なくなった。助産師五人は「職務で辞める人が多く、人手が足りないため、三交代勤務ができない。この態勢から抜け出すには、新卒から受け出すには、実働できる助産師の数を増やすしかない。このままでは助産師制度そのものがなくなってしまうのでは」と危ぶまる。多い志望者 県看護協会は毎年、大卒の学や文部科学省に助産師養成コースの定員増を求めている。

産科廃止・縮小

岡山県内の分娩件数は二〇〇五年に約一万六千九百件と、〇〇年より約二千五百件(13%)も減少。さらに、岡山大によると、妊婦が学生の分娩介助を拒否するケースが分娩件数の三分二を占めており、「安全性を懸念したり、プライバシーを主張する傾向が年々強まっている」(担当教員)。単純に分娩件数だけで定員を決められなくなり、拒否率も踏まえると定員を減らさざるを得ないという。岡山大は二十人の定員を〇六年度から七人に減らし、県立大も一九九三年の創立以来、四人のままというのが実情だ。

多い志望者

岡山県施設指導課にめる随情書を提出。〇四によると、県内で実際に働く助産師は〇四年時点で三百五十五人いたが都市部の施設に集中し、備前、瀬戸内の二市と十二郡(当時)にはいなかった。産科廃止や縮小に追い込まれる病院が相次ぎ、大学の養成枠が狭まれば、より深刻な事態になるといえる。岡山のある総合病院でも〇五年十一月、産科を縮小せざるを得なくなった。助産師五人は「職務で辞める人が多く、人手が足りないため、三交代勤務ができない。この態勢から抜け出すには、新卒から受け出すには、実働できる助産師の数を増やすしかない。このままでは助産師制度そのものがなくなってしまうのでは」と危ぶまる。